

9・18 事件公開学習会

非戦の思想を受け継ぐ

キリスト者遺族の会の歩みを省みて

キリスト者遺族の会が始まったころ、友人の一人は、よく「戦争を知らない子どもたち」を口ずさんでいました。1943～5 生まれの私たちには戦争中の記憶はありません。父親の顔も覚えていません。でも社会人となり、親となって考えます。父親はどうやって、なぜ死ななければならなかったのかと。選択肢のない時間。自らの言葉を、愛する者たちに伝える手段の絶たれた状況。父をその一人として含む、戦争で死んでいった人たちの『声』を歴史のなかから聞き取りたい。その言葉を、自分のことばとして再現し、その言葉を生きてゆきたい。

(岡田典夫；1938 年生、茨城キリスト教大学名誉教授、父、サイパンで戦死)

岡田さんは、憲法 9 条と原教育基本法に戦死者が残していった声をきくという。

今回、キリスト者遺族の会最後の集会において、「非戦」の原点を、内村鑑三を通して再確認し、私たちが踏み出すべき平和への次の一步を考えたい。



発題

矯風会の戦責告白 川野 安子

(日本キリスト教婦人矯風会前理事長)

非戦への途を望む 吉駒(塩田)明子

(遺族・キリスト者遺族の会世話人代表)

休憩のあと 1 時間を参加者全員の意見交換・懇談の時とします。(司会 坂内宗男)

日時: 9 月 16 日(木)14 時～16 時 (開場 13 時半)

会場: 矯風会館三階 集会室 (JR 大久保駅北口 3 分 TEL. 03-3361-0934)

「緊急事態宣言」が継続されている場合は、集会を中止します。

ご不明な時は、お問い合わせ下さい。問合せ Tel. 03-3361-0934

共催: キリスト者遺族の会・日本キリスト教婦人矯風会